

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：深澤 淳志

事業名 東北横断自動車道釜石秋田線 宮守～東和		事業 区分	新直轄	事業 主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点 自：岩手県遠野市宮守町下鱒沢 至：岩手県花巻市東和町安俵		延長			24km
事業概要 東北横断自動車道釜石秋田線宮守～東和は、東北横断自動車道釜石秋田線の一部を形成する延長約24kmの自動車専用道路であり、東北地方北部の太平洋側と日本海側との交流・連携を促進するとともに、物流効率化の支援や緊急輸送道路の信頼性向上及び地域医療サービスの向上等を目的としている。					
H10年度事業化		H8年度都市計画決定		H17年度用地着手	
H17年度工事着手					
全体事業費		772億円		事業進捗率	
		41%		供用済延長	
		0km			
計画交通量 9,200台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業)/ (事業全体) 450/757億円		総便益 (残事業)/ (事業全体) 953/953億円	
	1.3 (残事業) 2.1	事業費：395/703億円 維持管理費：54/54億円		走行時間短縮便益：705/705億円 走行経費減少便益：179/179億円 交通事故減少便益：70/70億円	
感度分析の結果 【残事業】 残事業について感度分析を実施					
交通量変動		B/C=2.3(交通量 +10%)		B/C=1.9(交通量 -10%)	
事業費変動		B/C=1.9(事業費 +10%)		B/C=2.3(事業費 -10%)	
事業期間変動		B/C=2.0(事業期間 +20%)		B/C=2.2(事業期間 -20%)	
事業の効果等 ・物流効率化の支援（国際コンテナ航路の発着港湾へのアクセス向上が見込まれる） ・災害への備え（緊急輸送道路の位置付けあり） 他13項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見 東北横断自動車道釜石秋田線宮守～東和は東北地方北部の太平洋側と日本海側との交流・連携を促進するとともに、物流効率化の支援や緊急輸送道路の信頼性向上及び地域医療サービスの向上等を期待されており、花巻市長をはじめとする首長で構成される東北横断自動車道釜石秋田線釜石花巻間建設促進期成同盟会等から早期整備の要望を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 事業進捗率は41%であり、現在、用地買収及び工事を推進している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成20年代中頃の全線2車線供用を目指しており、事業進捗に係わる問題はない。					
施設の構造や工法の変更等 耐候性鋼材を採用し、維持管理のコスト縮減を図る。 トンネルの断面の見直しによるコスト縮減を図る					
対応方針		事業継続			
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図					
					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。